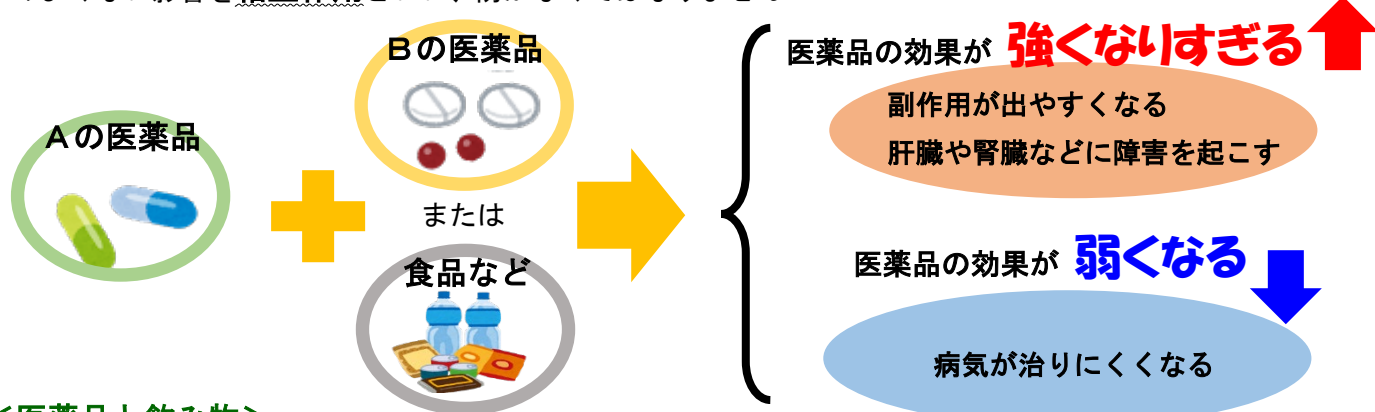


医薬品の相互作用って!?

医薬品と医薬品、または医薬品と飲食物の組み合わせによっては、よくない影響が出る場合があります。このよくない影響を相互作用といい、防がなくてはなりません



<医薬品と飲み物>

医薬品は、水か白湯（ぬるま湯）で飲んでください。水以外の飲み物は医薬品の作用を強めすぎたり、弱めたりすることがあるので避けましょう！

食品	医薬品	相互作用
牛乳	一部の抗菌薬など	牛乳に含まれるカルシウムと医薬品が結合して、医薬品の吸収が妨げられるため、医薬品の効果が弱まってしまふことがあります。
お茶 コーヒー	一部の咳止めなど	咳止めにはカフェインと似た性質のものがあリ、その医薬品と一緒に飲むと、医薬品の効果が強くなりすぎて、動悸や手指のふるえなどの副作用が現れることがあります。
グレープフルーツジュース	一部の高血圧薬など	グレープフルーツジュースが体の一部の酵素に影響を与えることで、血液中の医薬品の濃度が上昇し、医薬品の効果が強くなりすぎることがあります。
アルコール	様々な医薬品	アルコールは医薬品の分解に影響するため、血液中の医薬品の濃度が上昇し、医薬品によっては効果が強くなりすぎて、副作用が現れることがあります。

<医薬品と食品>

食品	医薬品	相互作用
ビタミンKを多く含む食品 納豆、緑黄色野菜（ブロッコリーなど）をお皿いっぱい量を食ふこと	抗血栓薬（ワルファリン）	ビタミンKは、血液を固まりにくくするワルファリンという医薬品の効果を弱めてしまい、血液が固まりやすくなってしまうことがあります。
カルシウムを多く含む食品 （小魚、チーズ、ヨーグルトなど）	一部の抗菌薬など	カルシウムと医薬品が結合してしまい、医薬品の吸収が妨げられるため、医薬品の効果が弱まってしまふことがあります。

「医薬品と飲食物」の組み合わせは、薬剤師などから注意を受けていても「うっかり」してしまうことがあるので注意しましょう！

薬の適正使用議会 <http://www.rad-ar.or.jp/use/guidance/interaction/chlorell1a.html>

作成・発行元 北陸大学薬学部 准教授 大柳賀津夫
金沢大学医薬保健研究域薬学系 教授 松下良
金沢大学医薬保健学域薬学類6年生 石浦美帆